

# アチエメックの風

あいち小児保健医療総合センターだより



第36号

平成25年夏発行

●発行●

あいち小児保健医療  
総合センター

## 診療科トピックス

整形外科

### 先天性内反足の治療について



先天性内反足(両足例)

先天性内反足は筋性斜頸、先天性股関節脱臼と並び小児整形外科における3大疾患と言われ、当科で治療することの多い疾患のひとつです。今回はこの先天

性内反足についてお話しさせていただきます。

出生時より写真(上)のような足の変形がみられる疾患です。放っておくと普通に歩行することが困難になります。原因はまだよくわかっていません。およそ1000人に1人の発生率で、男児に多く、両側例の方が片側例よりやや多いようです。全身的に何か疾患があり、その1症状として内反足がみられる場合もあります。見た目の変形から、内反足の診断は比較的容易ですが、正常な足の位置に簡単に矯正でき、足関節の動きも良好である場合には、胎内での不良肢位が原因のもので、真の内反足ではありません。矯正が難しい場合や関節の動きが十分でない場合には、本疾患と診断します。



ギプスによる矯正の様子



ギプスを巻いて矯正した状態



予防法はなく、診断がついたら、まず矯正ギプスによる治療を行います。当科では平成18年よりボンセッチ法という矯正方法を導入いたしました。週に1回の間隔で段階的に矯正しながらギプスを巻きかえ、6回ほど続けます。(写真左下)この際赤ちゃんがリラックスした状態で治療が受けられるように、ミルクを飲みながらギプス巻きを行っております。(写真下・左)最終的に小さな皮膚切開でアキレス腱を切る手術を行い、その後は専用の装具(写真下・右)によって矯正位を維持します。

従来の矯正方法では、十分な矯正が得られない場合には、1歳以降で比較的大きな手術を必要としていましたが、ボンセッチ法導入後はその頻度は減っています。残念ながら本疾患は完治することは難しいため、装具治療の継続が重要です。治療の目標は、足の裏を地面につけて歩行できること、皆と同じように体育に参加できる状態にすることです。



ミルクを飲みながらギプス巻きを行います



実際の装具です

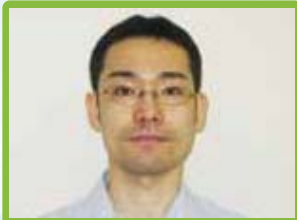


平成25年4月1日現在

## 新任医師紹介



●平成25年度、新たに11名の医師を迎えました。



大島 一夫  
小児外科



松井 照明  
アレルギー科



杉浦 至郎  
アレルギー科



白木 真由香  
感染症科



林 直史  
総合内科



北村 暁子  
整形外科



萩倉 祥一  
泌尿器科



栗本 路弘  
脳神経外科



森 啓充  
循環器科



勝村 彩  
麻酔科



山口 聖士  
歯科口腔外科



## 看護部だより

### 外来

外来には、総勢40人の看護師がいます。私たちが看護の中心に据えている事、それは、子どもと家族の気持ちを最も大切にするという事です。



毎日300人から700人の子どもたちが外来にやってきます。診察や検査を受ける子、リハビリテーションを受ける子、在宅で医療的ケアを行っている子、入院する子……。私たちは、そんな子どもたちの体温や身長体重を測ったり、診察に付き添ったり検査のお手伝いをしたりしています。外来のどこかで子どもたちと直接触れ合っています。

ある日の外来処置室。きちんと一人で座って採血を受ける年長さんがいました。その子は慢性疾患のため、幼少期から痛い検査や処置を頑張ってきました。針を刺す時は痛いけれど、じっと動かないでいたらすぐに採血が終わる事をよくわかっています。私達は、採血という一つの経験もこの子にとって成功体験の蓄積となることを願い、子ども

の頑張りを認め、たくさん褒めます。子どもは満足そうな笑顔を見せてくれました。一方で、母親は『慣れちゃう事が、良いのか悪いのか・・・』と、小さく呟きました。痛くない採血などありません。小さい頃から病院に通い、泣き叫びながら処置を受けてきたわが子とじっと我慢して採血を受ける今のわが子。親の気持ちはいかばかりかと思いません。いつも自分の身を切られる思いであろうと思います。こんな親の何気ない一言にも耳を傾け、気持ちに寄り添った看護がしたいと思っています。

子どもは成長します。それは、子ども自身にも家族にとっても嬉しい事です。病気や障がいを持っていてもその子らしく成長できるように、そして、親も子どもの成長が喜べるように、少しでもお役に立てるよう40人の看護師はスクラム組んで日々の看護を頑張っています。



## 私たちも活躍しています

### 臨床工学担当 (ME)

現在の医療は医療機器無くしては成り立たないほど多種多様な機器が使用されています。あいち小児センター内にはこれら医療機器を運転操作および保守管理をする専門技術者が日々活躍しています。医療職種として「臨床工学技士」と言い一般的には知名度が低い職種ですが病院の中ではその役割は確実に浸透してきています。あいち小児センター内の主な業務としては体外循環および補助循環、血液浄化などの医療機器を運転操作する業務と医療機器全般を保守管理しております。業務の中で心臓手術をおこなうときに使用される人工心肺装置の

運転操作は臨床工学技士が全面的におこなっている業務のひとつです。その操作には熟練した技術が要求され、新生児から乳幼児までの複雑心奇形症例に繊細な体外循環コントロールが必要になります。心臓手術をおこなっている間この人工心肺装置を数時間操作し生命維持を安全確実におこなう業務です。



心臓手術時に使用される人工心肺装置です



# 医療連携システムの利用のご案内

## 事前準備 (登録医の登録)



登録医  
申込書

送信

FAX

0562-43-0510



あいち小児センター 医療連携室

医療機関

## 1 医療機関から直接、診療申込みをされる場合

ご利用時間:火曜日～土曜日午前9時から午後5時までです。

① 診療情報提供書(兼)診療申込書をファックスにて送信してください。



診療情報提供書  
(兼)  
診療申込書

送信

FAX

0562-43-0510



あいち小児センター 医療連携室

医療機関

- ② 折り返し、日程調整のための電話が入ります。
- ③ 診療日を調整後、当センターから、紹介患者予約票を送付しますので、患者さまにお渡しください。

診療申込書は、休日及び時間外もお受けできますが、予約電話につきましては、火曜日から土曜日午前9時から午後5時までとなります。

## 2 患者さまから直接、当センターへ診療予約をされる場合

## 診療の 申込み方法



診療情報提供書  
(兼)  
診療申込書

送信

FAX

0562-43-0510



あいち小児センター 医療連携室

医療機関

- ② 「予約のお電話お待ちしております」の用紙に必要事項を記入し、患者さまにお渡しください。



予約のお電話  
お待ちしております

TEL

0562-43-0508

患者さまからの予約電話

紹介患者さま

- ③ 患者さまのご都合の良いときに、直接当センターへ診療予約のお電話をください。(予約をおとりします。ご紹介いただいた患者さまの状況は、「紹介患者様予約票」により適時ご連絡させていただきます。)

## 当日診療希望 および 時間外診療を ご希望



TEL

0562-43-0500

医療機関

(代表)までお電話ください。  
(時間外は当直医の対応になります。)



## 医療連携室

(患者様をご紹介いただく医療機関の皆様へ)

当センターの医療連携室は、地域の医療機関の皆様との円滑な連携に努め、患者様に専門的な医療を提供しております。

ご利用には「登録医としての登録」と登録医からの「診療申込み」が必要となります。

当センターの医療連携室を是非ご利用ください。

TEL.0562-43-0508 FAX.0562-43-0510

HPアドレス:<http://www.achmc.pref.aichi.jp>

受付 火曜日～土曜日

時間 9:00～17:00

祝日、年末年始を除く。土曜日が祝日の場合も受付、ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日を除く。

## 外来診療のご案内

- 詳細については、ホームページ等でお確かめください。
- 当センターの受診は、紹介予約制です。お電話にてご予約ください。

予約電話番号 **0562-43-0509** ファクシミリ **0562-43-0510** (9:00～17:00まで)

◆診療時間

午前9時から午前12時まで / 午後1時から午後4時まで

◆休診日

日曜日・月曜日・祝日・年末年始

ただし、月曜日が祝日の場合は火曜日を休診日。土曜日が祝日の場合は診療日

## あいち小児保健医療総合センター

〒474-8710 大府市森岡町尾坂田1番2号

TEL(0562)43-0500 FAX(0562)43-0513 URL:<http://www.achmc.pref.aichi.jp>



日本赤十字社  
愛知県赤十字会  
愛知県小児医療センター  
愛知県小児保健医療総合センター

大豆インクを使用しています